

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (北海道)	良くなる	商店街（代表者）	・消費増税前の特需が見込まれるため、売上は顕著に伸びることになる。外国人観光客も旧正月に向けて順調な予約状況となっていることから、過去にない売上が見込まれる。ただ、外国人観光客については、国際情勢に左右される面があるため、中国やタイの動向が懸念される。
		スーパー（店長）	・消費増税前の駆け込み需要による購買が顕著になる。ただし、消費増税後はその反動で一気に落ち込むことになる。
		家電量販店（地区統括部長）	・消費増税前の駆け込み需要がテレビ、パソコン、冷蔵庫、洗濯機といった大型商品を中心に出てくる。
		住宅販売会社（経営者）	・消費増税前の駆け込み需要が3月までの3か月間で大幅に出てくる。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・消費増税が決まったことの影響なのか高額商品の販売が良くなってきているため、今後についてはやや良くなる。
		百貨店（売場主任）	・4月からの消費増税を控えて、2～3月にかけての駆け込み需要が見込まれる。特に衣料品、雑貨関連、食品部門の売上が増加することになる。衣料品に関しては、各メーカーとも春物衣料の立ち上げを前年よりも2～3週間早くする予定であり、生産量も増やしているようである。
		百貨店（売場主任）	・消費増税に対する客の声がまだ多くないため、今後の駆け込み需要の拡大が期待される。
		スーパー（店長）	・4月の消費増税を控えて消費が活発になる。ただ、その後の反動が懸念される。
		スーパー（企画担当）	・サッカーワールドカップや東京オリンピックの準備を通じて、社会全体としてお金が循環する機会が増えることになり、それとともに客の財布のひもが緩むことになる。
		スーパー（役員）	・前年と比較して、天候が良く、降雪量も少ないことから、今後については期待できる。消費増税も控えていることから、3月までは良い方向に進むことになる。
		衣料品専門店（店長）	・客との会話から、今後については多少良くなる。
		家電量販店（経営者）	・3月には消費増税前の駆け込み需要が見込まれる。ただ、商品不足も想定されるため、爆発的な販売量の増加までは期待できない。
		家電量販店（店員）	・消費増税を見越して、高額商品の購買決定率が高かったことから、今後も3月までは少しずつ駆け込み需要が見込まれる。
		乗用車販売店（従業員）	・消費増税前の駆け込み需要により、今後についてはやや良くなる。
乗用車販売店（営業担当）	・消費増税前の駆け込み需要が見込まれる。		
自動車部品販売店（店長）	・3月には消費増税前の車検需要や新車納車後の用品購入で購買が大幅に増加する。		
旅行代理店（従業員）	・電気料金値上げ等の経費増加要因はあるが、観光消費を抑制するほどの影響はないとみられる。天候にも左右されるかもしれないが、地域の観光客の増加が期待できる。		
タクシー運転手	・冬期間はタクシーの利用が多いため、1～3月までの雪の降る時期は前年よりも良くなる。		
通信会社（企画担当）	・他社のサービスに流れる客の数が減り、自社のサービスに対する好反応が明らかに増えている。		
変わらない	商店街（代表者）	・消費増税を控えて駆け込み需要が目立つようになるとも考えられるが、衣料品に関しては、無駄なものは買わずに持っているもので済ませるといった傾向が強まることが懸念される。	
	一般小売店〔酒〕（経営者）	・年末という特殊要因により、普段の月よりも売上が良く、幾分明るい兆しも見えてきている。ただ、売上においては今後もそれほど大きな変動はない。	
	百貨店（売場主任）	・消費増税前の駆け込み需要を期待しているが、12月現在の食品以外の高額商品の動きをみると、衣料品を中心に買い控えが生じており、結果的に景気は変わらないまま推移する。	
	百貨店（販売促進担当）	・冬季の節電要請や灯油の価格高騰による暖房費の負担増などにより、購買に対する気運はなかなか高まらない。また、4月以降は消費増税による消費マインドの低下が見込まれ、苦戦を強いられることになる。	
	百貨店（販売促進担当）	・消費増税を控えた駆け込み需要が年明けから本格的になる。ただ、消費増税直後の反動減が見込まれるため、全体としては相殺され、現状維持もしくはマイナスとなる懸念がある。	

百貨店（役員）	・現時点においては消費税増税前の駆け込み需要は全くみられない。年が明けてから、大型商品に動きが出てくるのかを見極めて判断したい。
コンビニ（エリア担当）	・漁業等の1次産業は1年間の収入が年末で決まることになるが、今年は特に収量が悪いと、悪い状態をそのまま3～4か月引きずってしまうことになる。
衣料品専門店（経営者）	・消費税増税やガソリン、灯油の価格高騰等が家計に大きく影響することになる。今後は物価が上がる傾向になるため、衣料品については、冬物から春物にかけての身の回り品の販売量が前年よりも減少する。
乗用車販売店（従業員）	・消費税増税前の駆け込み需要により大きく期待したいところだが、自動車の場合は登録日が基準となるため、今月以上の伸びを期待することは厳しい。
乗用車販売店（従業員）	・2～3か月後はまだ消費税が上がっていないため、その時点で車の登録が間に合うようであれば、販売台数が伸びることになる。ただ、4月以降は落ち込みが懸念される。
その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・消費税増税前の駆け込み需要は期待できないため、非常に厳しい状況になる。
高級レストラン（スタッフ）	・食材の価格が値上がりしたため、消費税増税の際は増税分の3%分を上乗せしたうえで人気のあるメニューを続けるか、メニューを全く変えてしまうかのどちらかになるが、今後の景気が読めないため、対応を決めかねている。
スナック（経営者）	・今後についてもそれほど変わらない。
観光型ホテル（経営者）	・冬の観光シーズンに向けて、引き続き外国人観光客の予約が好調だが、消費単価が低いことやエネルギーコストの上昇等により、利益が相殺されることが懸念される。
旅行代理店（従業員）	・国内旅行と海外旅行の販売量がともに増加してこない。海外旅行は12月から良化傾向がうかがえるようになったが、逆に国内旅行は前年比でかなり落ち込んでいる。
旅行代理店（従業員）	・消費税増税を控えて節約目的での前倒し購入の増加を期待しているものの、必ずしも消費マインドが向上しているわけではないため、むしろ買い控えになることを懸念している。
旅行代理店（従業員）	・今後に向けての良い要素がない。
タクシー運転手	・この先の予約状況等から、今後も変わらない。
観光名所（従業員）	・12月から2月までが、外国人観光客の冬季観光のメインシーズンであり、今月は天候に恵まれたが、1～2月は天候次第の面があるため、今月よりも良くなるとは考えにくい。ただ、外国人観光客の入込については変わらずに勢いがあることから、ほぼ今月並みで推移する。
観光名所（職員）	・政府の景気対策は現在のところ一部の企業にしか恩恵がみられないため、今後についても変わらない。
パチンコ店（役員）	・流通業は消費税増税を控えて売上が良いようだが、他の業種に関してはあまり景気の良い話は聞こえてこない。現在の景気回復は一部の業種によるものであるため、今後も変わらない。
美容室（経営者）	・当面は大きな不安要素もないため、今後も同じような生活を維持する傾向が続く。
やや悪くなる	
商店街（代表者）	・世間一般の景況感と異なり、商店街では閉塞感が表面化してきている。マイナス要因が表面化してくると、集客力がより一層落ちてくるため、今後はやや悪くなる。
商店街（代表者）	・消費税増税を控えて、様子見の状態が続く。
商店街（代表者）	・当商店街においては、近年、2～3月にかけての買物客が減少する傾向にある。消費税増税直前とはいえ、燃料等にお金のかかる時期であるため、節約のため外出を控える傾向は今後も変わらない。
商店街（代表者）	・当地域全般にいえることだが、来客数が圧倒的に少ない状況にあり、2～3か月先もこうした状況が劇的に改善することはない、同様の状態が続く。
一般小売店〔土産〕（経営者）	・石油製品価格や資材価格の高止まりが続いていることに加えて、冬期の節電要請がムードを圧迫している。4月の消費税増税を控えて、今から引締めに入っているという客も多い。
スーパー（店長）	・消費税増税を控えていることで、今後についてはやや悪くなる。
スーパー（企画担当）	・燃料の価格高騰、野菜や食肉の価格上昇に加えて、消費税増税を控えて消費者心理にマイナスの影響が生じていることから、例年に比べてクリスマス商戦、歳暮ギフト商戦が盛り上がり欠けている。年末商戦もやや落ち着いたスタートとなっており、今後についてはやや悪くなる。
スーパー（役員）	・3月は消費税増税前の駆け込み需要により、一時的に景気が良くなるが、電気料金やガソリン価格の値上がりもあり、4月以降は儉約ムードが強くなる。

	コンビニ（エリア担当）	・消費増税により競合他社との価格競争が激しくなり、日用品、食品の売上減少が続く。	
	高級レストラン（経営者）	・これから消費税が上がるため、一時的に景気は悪くなる。ただ、東京オリンピックの開催準備に向けて、建設関連の売上増加や株価の上昇が見込まれ、地方への影響は少ないが、一部では景気の良い会社も出てくることになる。	
	観光型ホテル（スタッフ）	・集客の目玉となるようなイベント、学会、スポーツ大会の開催が予定されていないため、今後についてはやや悪くなる。国内旅行会社の企画募集も低調であり、近隣アジア諸国からの観光客の動向も不透明である。	
	旅行代理店（従業員）	・4月の消費増税を懸念しているのか、3月の春休みの旅行の予約の出足が非常に悪い。	
	タクシー運転手	・季節的な要因ではあるが、現在は燃料価格の高止まりにより、暮らし向きが厳しい状況となっている。また、一般商品の物価も次々と値上がりしており、4月の消費増税を控えて、買い控えの傾向が一層強まる懸念される。	
	タクシー運転手	・景気回復がみられないなかで、物価上昇による負担増が大きくなっており、タクシーの利用も控えているという声が聞こえている。このため、2～3か月後は、今まで以上にタクシー利用が減少することになる。	
	通信会社（社員）	・消費増税前の駆け込み需要もすでに落ち着いてきている。企業はすでに4月以降を見据えており、活発な経済活動というよりは様子見の状況が強まることになる。今後については、不透明感が強く、どうなるのか判断できないとの声が多く、多くの客が4月以降の景気を消極的にとらえている。	
	美容室（経営者）	・消費増税による家計への影響が懸念されるため、売上は厳しくなる。	
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・厳冬期に入り、天候不順や流水の影響による欠航等が懸念される。	
	悪くなる		
企業動向関連 (北海道)	良くなる	家具製造業（経営者）	・小売業への販売や直接販売等において、消費増税前の駆け込み需要による受注量の増加が期待できる。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・規制緩和の進展や企業業績の回復、税制改正の効果が出てくる。
やや良くなる		建設業（経営者）	・補正予算やゼロ国債による公共事業の発注が始まることになり、実需はまだともなわないが、マインド面は好転する。民間工事については消費増税の影響がよく分からないものの、それなりの動きは見込める。
		建設業（従業員）	・現政権が景気浮揚のための3本目の矢を放つことから、公共工事の絶対量が増える。
		通信業（営業担当）	・受注量、案件数がともに増加傾向にあり、単価も上昇傾向を示していることから、今後もやや良くなる。
		金融業（企画担当）	・個人消費は駆け込み需要により高額品を中心に盛り上がる。建設業界も平成26年度の公共投資予算が手厚くなったことから、先行きの懸念がある程度払しょくされ、引き続き好調に推移する。観光も円安傾向が続くことでアジアからの観光客が増加する。
		コピーサービス業（従業員）	・取引先から買取や吸収の話や設備投資の話をよく聞くことから、今後についてはやや良くなる。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	・石油製品価格や材料価格、消耗資材価格の値上げが相次ぎ、商品の確保が困難な状況にある。さらに、ものづくり補助金の適用顧客が多く、大型案件の納入や年度末に向けた工事案件も多く見込まれることから、全般的に売上は順調に伸びる。
変わらない		食料品製造業（役員）	・今のところ、増える案件も減る案件も見当たらないため、このままで推移する。
		金属製品製造業（役員）	・消費増税前の駆け込み需要で受注が増えるとみる向きもあるが、北海道の場合は積雪の問題があるため、今後もあまり変わらない。
		輸送業（営業担当）	・燃料価格が高止まりしており、陸上輸送も海上輸送も厳しい経営環境にある。それ以上に、全国各地でドライバーや車両の不足が一段と進んでおり、通常輸送に影響が出てくる懸念される。
		輸送業（支店長）	・年度末の新規案件に多少の期待を持っているが、北海道は冬期間の真っ只中であるため、新規案件は新年度以降の取組となる。
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・短期的には、現在より良くなる要素も悪くなる要素もない。人手が足りず、新たな案件が出てきてもこなせない状況にある。

	やや悪くなる	司法書士	・例年、冬期間は土地の売買はともかく、建物の新築、増築は皆無の時期であり、消費税増税前の駆け込み需要も期待できない。
		司法書士	・冬期間の要因に加えて、消費税増税、円安進行によるガソリン価格、灯油価格の上昇などにより、今後、景気は停滞することになる。
	悪くなる	-	-
雇用 関連 (北海道)	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社 (編集者)	・全業種的に人手不足感が顕在化していることから、今後、さらに需要が増えてくる。
		求人情報誌製作会社 (編集者)	・現政権の経済対策も2年目となり、計画どおりに進めば、景気は順調に回復することになる。ただ、大手企業は真っ先に潤うが、中小企業まで効果が出るには時間がかかる。
		職業安定所(職員)	・消費税増税が実施されるまで、求人数の増加傾向は続く。
	変わらない	人材派遣会社(社員)	・年度替わりに向けて一時的に雇用が増加しているが、一過性のものであるため、今後も変わらない。
		求人情報誌製作会社 (編集者)	・ここ数か月、求人数の伸びは落ち着いてきている。4月の消費税増税を控えていることもあり、一段の伸びは期待できない。
		求人情報誌製作会社 (編集者)	・消費税増税前の駆け込み需要がみられても、その後の需要減はまぬがれない。
		新聞社[求人広告] (担当者)	・地方で現政権の経済対策の効果を肌で感じることはないが、これまでの非正規雇用を中心にした求人数は維持する。
		学校[大学](就職担当)	・道内企業の新卒採用状況は依然として厳選採用が続いており、事業所拡大や設備投資にも慎重であることから、2~3か月後の景気もほぼ変わらない。
	やや悪くなる	職業安定所(職員)	・円安による燃料価格の高騰が続いており、厳冬期を迎えて燃料価格がさらに高騰することになれば企業経営が一層苦しくなる。今後の雇用動向は経済活動に左右されることになる。
悪くなる	-	-	